

# 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領 2013 に準拠して作成

長時間作用型 ARB/持続性 Ca 拮抗薬配合剤  
 日本薬局方  
 イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩錠  
 イルアミクス配合錠LD「YD」  
 イルアミクス配合錠HD「YD」  
 ILUAMIX TABLETS

剤形	フィルムコーティング錠		
製剤の規制区分	劇薬、処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）		
規格・含量	配合錠LD：1錠中、イルベサルタン 100mg、アムロジピンベシル酸塩 6.93mg（アムロジピンとして5mg）を含有する。 配合錠HD：1錠中、イルベサルタン 100mg、アムロジピンベシル酸塩 13.87mg（アムロジピンとして10mg）を含有する。		
一般名	和名	洋名	
	イルベサルタン（JAN）	Irbesartan（JAN）	
	アムロジピンベシル酸塩（JAN）	Amlodipine Besilate（JAN）	
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日		配合錠LD	配合錠HD
	製造販売承認年月日	平成30年2月15日	平成30年2月15日
	薬価基準収載年月日	平成30年6月15日	平成30年6月15日
	発売年月日	平成30年6月15日	平成30年6月15日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：株式会社陽進堂		
医薬情報担当者の連絡先			
問い合わせ窓口	株式会社陽進堂 お客様相談室 ☎ 0120-647-734 医療関係者向けホームページ <a href="http://www.yoshindo.co.jp">http://www.yoshindo.co.jp</a>		

本IFは2018年6月作成（第1版）の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ

<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

# I F 利用の手引きの概要－日本病院薬剤師会－

## 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、I F と略す）の位置付け並びに I F 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において I F 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において I F 記載要領 2008 が策定された。

I F 記載要領 2008 では、I F を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-I F）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した場合の e-I F が提供されることとなった。

最新版の e-I F は、（独）医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ（<http://www.info.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-I F を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-I F の情報を検討する組織を設置して、個々の I F が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

平成 20 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、I F 記載要領の一部改訂を行い I F 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

## 2. I F とは

I F は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は I F の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された I F は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

#### [ I F の様式 ]

- ① 規格はA 4判、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ② I F 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③ 表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「I F 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

#### [ I F の作成 ]

- ① I F は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ② I F に記載する項目及び配列は日病薬が策定したI F 記載要領に準拠する。
- ③ 添付文書の内容を補完するとのI F の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④ 製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤ 「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下、「I F 記載要領 2013」と略す）により作成されたI F は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

#### [ I F の発行 ]

- ① 「I F 記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ② 上記以外の医薬品については、「I F 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③ 使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはI F が改訂される。

### 3. I F の利用にあたって

「I F 記載要領 2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のI F については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、I F の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やI F 作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、I F の利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I F が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、I F の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

#### 4. 利用に際しての留意点

I Fを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。I Fは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、I Fがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

# 目 次

I.	概要に関する項目	6
1.	開発の経緯	
2.	製品の治療学的・製剤学的特性	
II.	名称に関する項目	7
1.	販売名	
2.	一般名	
3.	構造式又は示性式	
4.	分子式及び分子量	
5.	化学名（命名法）	
6.	慣用名、別名、略号、記号番号	
7.	C A S登録番号	
III.	有効成分に関する項目	9
1.	物理化学的性質	
2.	有効成分の各種条件下における安定性	
3.	有効成分の確認試験法	
4.	有効成分の定量法	
I V.	製剤に関する項目	11
1.	剤 形	
2.	製剤の組成	
3.	懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	
4.	製剤の各種条件下における安定性	
5.	調製法及び溶解後の安定性	
6.	他剤との配合変化（物理化学的変化）	
7.	溶出性	
8.	生物学的試験法	
9.	製剤中の有効成分の確認試験法	
10.	製剤中の有効成分の定量法	
11.	力価	
12.	混入する可能性のある夾雑物	
13.	注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	
14.	その他	
V.	治療に関する項目	19
1.	効能又は効果	
2.	用法及び用量	
3.	臨床成績	
V I.	薬効薬理に関する項目	21
1.	薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	
2.	薬理作用	
V II.	薬物動態に関する項目	22
1.	血中濃度の推移・測定法	
2.	薬物速度論的パラメータ	
3.	吸 収	
4.	分 布	
5.	代 謝	
6.	排 泄	
7.	トランスポーターに関する情報	

8.	透析等による除去率	
<b>V III.</b>	<b>安全性（使用上の注意等）に関する項目</b>	<b>30</b>
1.	警告内容とその理由	
2.	禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	
3.	効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	
4.	用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	
5.	慎重投与内容とその理由	
6.	重要な基本的注意とその理由及び処置方法	
7.	相互作用	
8.	副作用	
9.	高齢者への投与	
10.	妊婦、産婦、授乳婦等への投与	
11.	小児等への投与	
12.	臨床検査結果に及ぼす影響	
13.	過量投与	
14.	適用上の注意	
15.	その他の注意	
16.	その他	
<b>I X.</b>	<b>非臨床試験に関する項目</b>	<b>36</b>
1.	薬理試験	
2.	毒性試験	
<b>X.</b>	<b>管理的事項に関する項目</b>	<b>37</b>
1.	規制区分	
2.	有効期間又は使用期限	
3.	貯法・保存条件	
4.	薬剤取扱い上の注意点	
5.	承認条件等	
6.	包装	
7.	容器の材質	
8.	同一成分・同効薬	
9.	国際誕生年月日	
10.	製造販売承認年月日及び承認番号	
11.	薬価基準収載年月日	
12.	効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	
13.	再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	
14.	再審査期間	
15.	投薬期間制限医薬品に関する情報	
16.	各種コード	
17.	保険給付上の注意	
<b>X I.</b>	<b>文献</b>	<b>39</b>
1.	引用文献	
2.	その他の参考文献	
<b>X II.</b>	<b>参考資料</b>	<b>39</b>
1.	主な外国での発売状況	
2.	海外における臨床支援情報	
<b>X III.</b>	<b>備考</b>	<b>39</b>
	その他の関連資料	

# I. 概要に関する項目

---

## 1. 開発の経緯

イルアミクス（イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩）配合錠は、アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬であるイルベサルタンと、ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬であるアムロジピンベシル酸塩を含有する配合剤である。

「イルアミクス」は、日本ジェネリック医薬品学会が一般名ルールの適用されない配合剤の後発医薬品向けに商標登録した統一ブランドである。

イルアミクス配合錠LD「YD」は株式会社陽進堂が後発医薬品として開発を企画し、薬食発 1121 第 2 号（平成 26 年 11 月 21 日）に基づき規格及び試験方法を設定、加速試験を実施し、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」（平成 12 年 2 月 14 日付医薬審第 64 号、平成 24 年 2 月 29 日付薬食審査発 0229 第 10 号一部改正）に基づき、イルアミクス配合錠HD「YD」を標準製剤として生物学的に同等とみなされ、平成 30 年 2 月に承認を得て、平成 30 年 6 月発売に至った。

イルアミクス配合錠HD「YD」は株式会社陽進堂が後発医薬品として開発を企画し、薬食発 1121 第 2 号（平成 26 年 11 月 21 日）に基づき規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、平成 30 年 2 月に承認を得て、平成 30 年 6 月発売に至った。

## 2. 製品の治療学的・製剤学的特性

該当資料なし

## II. 名称に関する項目

### 1. 販売名

#### (1) 和名

イルアミクス配合錠LD「YD」

イルアミクス配合錠HD「YD」

#### (2) 洋名

ILUAMIX TABLETS LD

ILUAMIX TABLETS HD

#### (3) 名称の由来

統一ブランド名（日本ジェネリック医薬品学会）

### 2. 一般名

#### (1) 和名（命名法）

イルベサルタン（JAN）

アムロジピンベシル酸塩（JAN）

#### (2) 洋名（命名法）

Irbesartan（JAN）

Amlodipine Besilate（JAN）

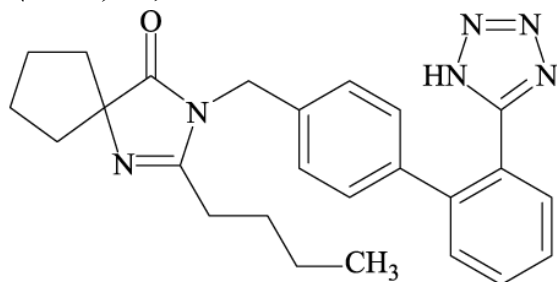
#### (3) ステム

アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬：-sartan

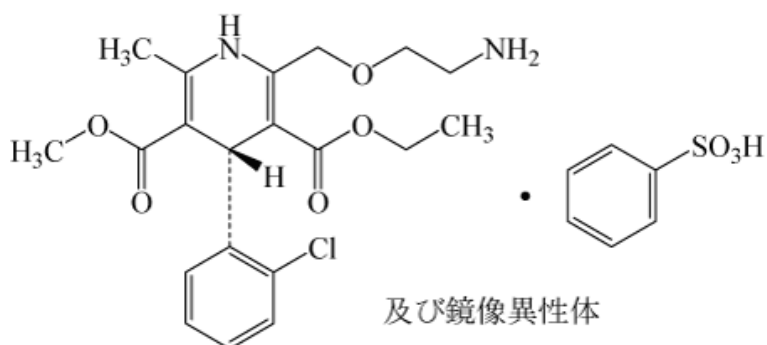
ニフェジピン系のカルシウムチャンネル拮抗薬：-dipine

### 3. 構造式又は示性式

イルベサルタン



アムロジピンベシル酸塩





#### 4. 分子式及び分子量

イルベサルタン

分子式：C<sub>25</sub>H<sub>28</sub>N<sub>6</sub>O

分子量：428.53

アムロジピンベシル酸塩

分子式：C<sub>20</sub>H<sub>25</sub>ClN<sub>2</sub>O<sub>5</sub>・C<sub>6</sub>H<sub>6</sub>O<sub>3</sub>S

分子量：567.05

#### 5. 化学名（命名法）

イルベサルタン

2-Butyl-3-{[2'-(1*H*-tetrazol-5-yl)biphenyl-4-yl]methyl}-1,3-diazaspiro[4.4]non-1-en-4-one (IUPAC)

アムロジピンベシル酸塩

3-Ethyl 5-methyl (4*RS*)-2-[(2-aminoethoxy)-methyl]-4-(2-chlorophenyl)-6-methyl-1,4-dihydropyridine-3,5-dicarboxylate monobenzenesulfonate (IUPAC)

#### 6. 慣用名、別名、略号、記号番号

該当資料なし

#### 7. CAS登録番号

イルベサルタン

138402-11-6

アムロジピンベシル酸塩

111470-99-6

## Ⅲ. 有効成分に関する項目

---

### 1. 物理化学的性質

#### (1) 外観・性状

イルベサルタン

白色の結晶性の粉末である。

アムロジピンベシル酸塩

白色～帯黄白色の結晶性の粉末である。

#### (2) 溶解性

イルベサルタン

酢酸(100)に溶けやすく、メタノールにやや溶けにくく、エタノール(99.5)に溶けにくく、水にほとんど溶けない。

アムロジピンベシル酸塩

メタノールに溶けやすく、エタノール(99.5)にやや溶けにくく、水に溶けにくい。

#### (3) 吸湿性

該当資料なし

#### (4) 融点(分解点)、沸点、凝固点

アムロジピンベシル酸塩

融点：約198℃(分解)

#### (5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

#### (6) 分配係数

該当資料なし

#### (7) その他の主な示性値

アムロジピンベシル酸塩

メタノール溶液(1→100)は旋光性を示さない。

### 2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

### 3. 有効成分の確認試験法

イルベサルタン

(1) 紫外可視吸光度測定法

(2) 赤外吸収スペクトル測定法(臭化カリウム錠剤法)

アムロジピンベシル酸塩

(1) 紫外可視吸光度測定法

(2) 赤外吸収スペクトル測定法(臭化カリウム錠剤法)

(3) 塩化バリウム試液による沈殿反応(白色)

#### 4. 有効成分の定量法

イルベサルタン

電位差滴定法



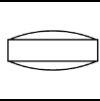


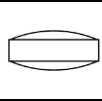
アムロジピンベシル酸塩

液体クロマトグラフィー

# I V. 製剤に関する項目

## 1. 剤形

### (1) 剤形の区別、外観及び性状

販売名		イルアミクス配合錠LD「YD」	イルアミクス配合錠HD「YD」
剤形		フィルムコーティング錠	
色調		白色～帯黄白色	うすいだいだい色
重量		180 mg	180 mg
形状	表面		直径 約 8.1mm
	裏面		
	側面		厚さ 約 3.9mm
形状	表面		直径 約 8.1mm
	裏面		
	側面		厚さ 約 3.9mm

#### イルアミクス配合錠LD「YD」

白色～帯黄白色のフィルムコーティング錠である。

#### イルアミクス配合錠HD「YD」

うすいだいだい色のフィルムコーティング錠である。

### (2) 製剤の物性

該当資料なし

### (3) 識別コード

イルアミクス配合錠LD「YD」：YD206（PTP）

イルアミクス配合錠HD「YD」：YD207（PTP）

### (4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等

該当資料なし

## 2. 製剤の組成

### (1) 有効成分（活性成分）の含量

#### イルアミクス配合錠LD「YD」

1錠中、イルベサルタン 100mg、アムロジピンベシル酸塩 6.93mg（アムロジピンとして5mg）を含有する。

#### イルアミクス配合錠HD「YD」

1錠中、イルベサルタン 100mg、アムロジピンベシル酸塩 13.87mg（アムロジピンとして10mg）を含有する。

### (2) 添加物

#### イルアミクス配合錠LD「YD」

添加物として、D-マンニトール、セルロース、ポリビニルアルコール・ポリエチレングリコール・グラフトコポリマー、軽質無水ケイ酸、クロスカルメロース Na、ステアリン酸 Mg、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン、カルナウバロウを含有する。

### イルアミクス配合錠HD「YD」

添加物として、D-マンニトール、セルロース、ポリビニルアルコール・ポリエチレングリコール・グラフトコポリマー、軽質無水ケイ酸、クロスカルメロース Na、ステアリン酸 Mg、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン、三二酸化鉄、カルナウバロウを含有する。

### (3) その他

該当記載事項なし

### 3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

### 4. 製剤の各種条件下における安定性<sup>1)</sup>

#### イルアミクス配合錠LD「YD」

<加速試験>

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6ヶ月）の結果、イルアミクス配合錠LD「YD」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

保存形態：PTP包装

試験項目	試験開始時	6ヶ月後
性状	適合	適合
確認試験	(1)	適合
	(2)	適合
製剤均一性試験	適合	適合
溶出試験 イルベサルタン	適合	適合
溶出試験 アムロジピンベシル酸塩	適合	適合
定量試験(%) (95.0~105.0) イルベサルタン	99.8	99.9
定量試験(%) (95.0~105.0) アムロジピンベシル酸塩	100.3	99.0

保存形態：バラ包装

試験項目	試験開始時	6ヶ月後
性状	適合	適合
確認試験	(1)	適合
	(2)	適合
製剤均一性試験	適合	適合
溶出試験 イルベサルタン	適合	適合
溶出試験 アムロジピンベシル酸塩	適合	適合
定量試験(%) (95.0~105.0) イルベサルタン	99.8	99.5
定量試験(%) (95.0~105.0) アムロジピンベシル酸塩	100.3	99.1

## イルアミクス配合錠HD「YD」

### <加速試験>

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度75%、6ヶ月）の結果、イルアミクス配合錠HD「YD」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

### 保存形態：PTP包装

試験項目	試験開始時	6ヶ月後
性状	適合	適合
確認試験	(1)	適合
	(2)	適合
製剤均一性試験	適合	適合
溶出試験 イルベサルタン	適合	適合
溶出試験 アムロジピンベシル酸塩	適合	適合
定量試験(%) (95.0~105.0) イルベサルタン	100.4	100.1
定量試験(%) (95.0~105.0) アムロジピンベシル酸塩	99.4	99.4

### 保存形態：バラ包装

試験項目	試験開始時	6ヶ月後
性状	適合	適合
確認試験	(1)	適合
	(2)	適合
製剤均一性試験	適合	適合
溶出試験 イルベサルタン	適合	適合
溶出試験 アムロジピンベシル酸塩	適合	適合
定量試験(%) (95.0~105.0) イルベサルタン	100.4	99.6
定量試験(%) (95.0~105.0) アムロジピンベシル酸塩	99.4	99.7

## 5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

## 6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

## 7. 溶出性<sup>2)</sup>

溶出挙動における類似性

イルアミクス配合錠LD「YD」

「Ⅶ. 薬物動態に関する項目 1. 血中濃度の推移、測定法」を参照

## イルアミクス配合錠HD「YD」

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン(平成9年12月22日付医薬審第487号、平成24年2月29日付薬食審査発0229第10号一部改正)」

イルベサルタン

試験方法

装置 : 日本薬局方一般試験法溶出試験第2法 (パドル法)

試験液量 : 900mL

温度 : 37±0.5℃

回転数 : 50回転

試験液 : pH1.2 = 日本薬局方溶出試験第1液

pH3.0 = 薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8 = 日本薬局方溶出試験第2液

水 = 日本薬局方精製水

判定基準 : 【pH1.2】

標準製剤が15分以内に平均85%以上溶出する場合、試験製剤が15分以内に平均85%以上溶出するか、又は15分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

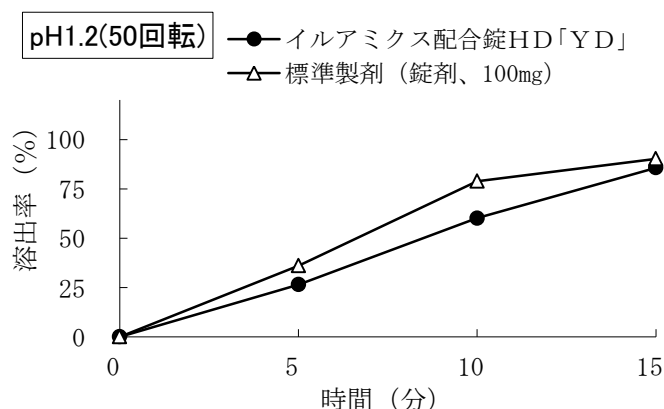
【pH3.0、水】

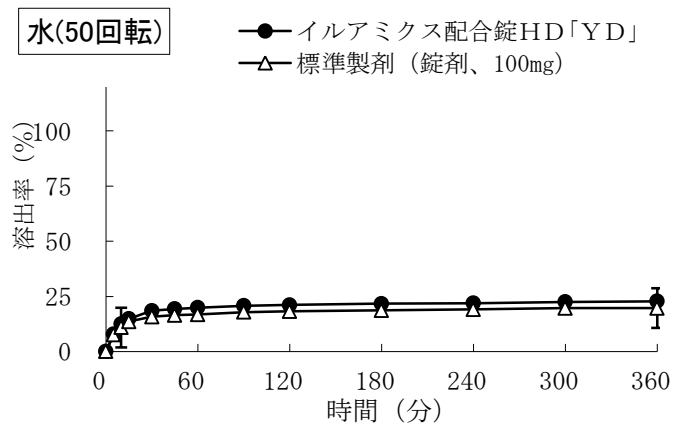
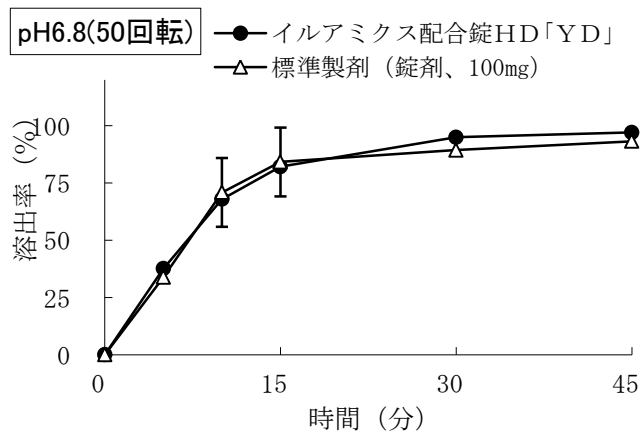
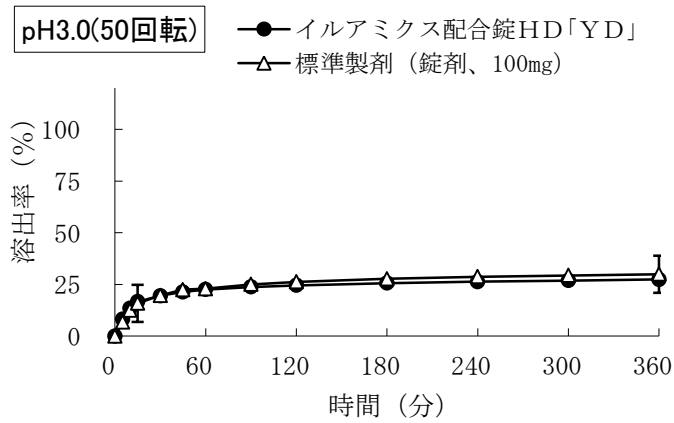
規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が50%に達しないとき、標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の1/2の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にあるか、又はf<sub>2</sub>関数の値が53以上である。ただし、規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が10%以下の場合、規定された試験時間でのみ評価し、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にある。

【pH6.8】

標準製剤が15～30分に平均85%以上溶出する場合、標準製剤の平均溶出率が約60%及び85%となる適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf<sub>2</sub>関数の値が42以上である。

試験結果 :





アムロジピンベシル酸塩

試験方法

装置 : 日本薬局方一般試験法溶出試験第2法 (パドル法)

試験液量 : 900mL

温度 : 37±0.5℃

回転数 : 50回転

試験液 : pH1.2=日本薬局方溶出試験第1液

pH5.0=薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8=日本薬局方溶出試験第2液

水 = 日本薬局方精製水



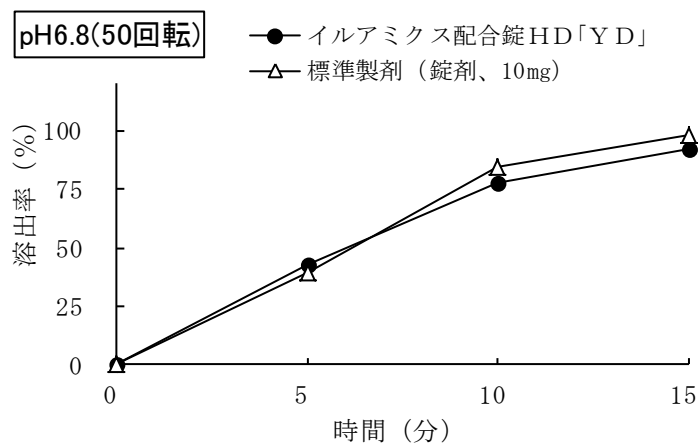
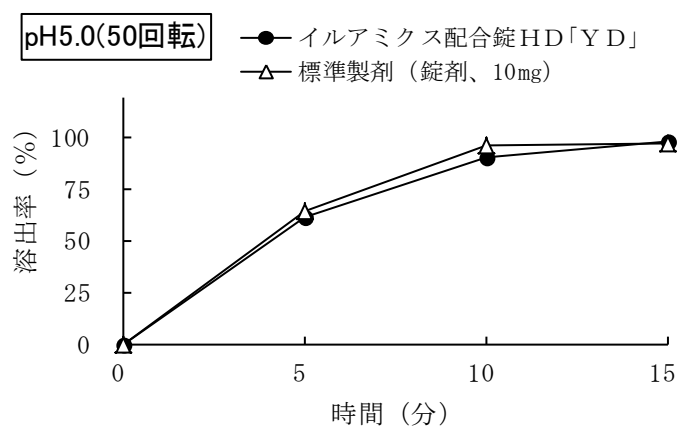
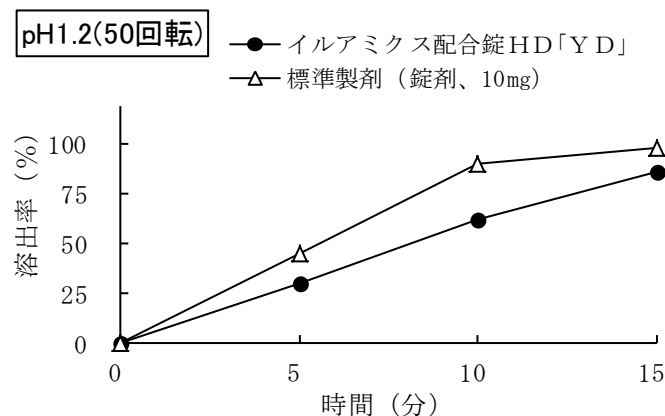
判定基準：【pH1.2、pH5.0、pH6.8】

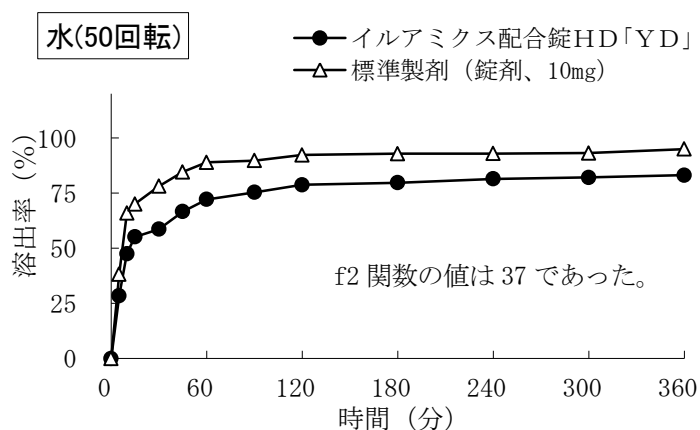
標準製剤が15分以内に平均85%以上溶出する場合、試験製剤が15分以内に平均85%以上溶出するか、又は15分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲にある。

【水】

規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が85%以上となる時、標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲にあるか、又はf2関数の値は42以上である。

試験結果：





水 (50 回転) において、f2 関数の値は 42 未満であり、両製剤の溶出挙動の類似性は確認できなかった。

一部の試験条件で溶出挙動の判定基準に適合しなかったが、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」で「溶出試験による類似性の判定は、生物学的に同等であることを意味するものではない」と記載されている。健康成人男子を被験者として生物学的同等性試験を実施した結果、イルアミクス配合錠HD「YD」は、標準製剤との生物学的同等性が確認されている。

#### 公的溶出規格への適合性

##### イルアミクス配合錠LD「YD」

イルアミクス配合錠LD「YD」は、日本薬局方医薬品各条に定められたイルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

#### 溶出規格

##### イルベサルタン

表示量	試験液	回転数	測定時間	溶出率
錠剤	溶出試験第2液	50 回転	30 分	70%以上

##### アムロジピンベシル酸塩

表示量	試験液	回転数	測定時間	溶出率
錠剤	溶出試験第2液	50 回転	30 分	75%以上

##### イルアミクス配合錠HD「YD」

イルアミクス配合錠HD「YD」は、日本薬局方医薬品各条に定められたイルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

#### 溶出規格

##### イルベサルタン

表示量	試験液	回転数	測定時間	溶出率
錠剤	溶出試験第2液	50 回転	30 分	70%以上

##### アムロジピンベシル酸塩

表示量	試験液	回転数	測定時間	溶出率
錠剤	溶出試験第2液	50 回転	30 分	75%以上

## 8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

イルベサルタン

液体クロマトグラフィー

アムロジピンベシル酸塩

液体クロマトグラフィー

10. 製剤中の有効成分の定量法

イルベサルタン

液体クロマトグラフィー

アムロジピンベシル酸塩

液体クロマトグラフィー

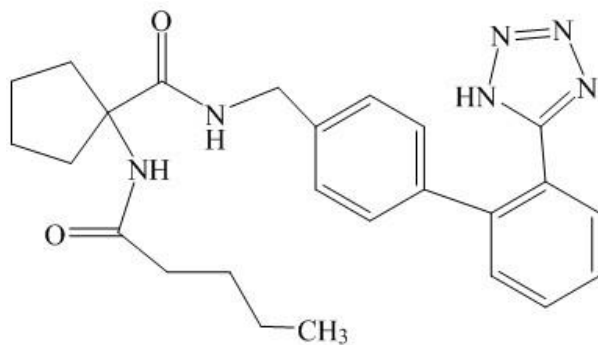
11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

イルベサルタン

アジ化物



13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

## V. 治療に関する項目

---

### 1. 効能又は効果

高血圧症

#### ※効能又は効果に関連する使用上の注意

過度な血圧低下のおそれ等があり、本剤を高血圧治療の第一選択薬としないこと。

### 2. 用法及び用量

通常、成人には1日1回1錠(イルベサルタン/アムロジピンとして100mg/5mg又は100mg/10mg)を経口投与する。本剤は高血圧治療の第一選択薬として用いない。

#### ※用法及び用量に関連する使用上の注意

(1)以下のイルベサルタンとアムロジピンの用法・用量を踏まえ、患者毎に用量を決めること。

イルベサルタン

通常、成人にはイルベサルタンとして50～100mgを1日1回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日最大投与量は200mgまでとする。

アムロジピン

・高血圧症

通常、成人にはアムロジピンとして2.5～5mgを1日1回経口投与する。なお、症状に応じ適宜増減するが、効果不十分な場合には1日1回10mgまで増量することができる。

(2)原則として、イルベサルタン100mg及びアムロジピンとして5mgを併用している場合、あるいはいずれか一方を使用し血圧コントロールが不十分な場合に、100mg/5mgへの切り替えを検討すること。

(3)原則として、イルベサルタン100mg及びアムロジピンとして5mgを併用若しくは100mg/5mgで血圧コントロールが不十分な場合に、100mg/10mgへの切り替えを検討すること。

### 3. 臨床成績

#### (1) 臨床データパッケージ

該当しない

#### (2) 臨床効果

該当資料なし

#### (3) 臨床薬理試験：忍容性試験

該当資料なし

#### (4) 探索的試験：用量反応探索試験

該当資料なし

#### (5) 検証的試験

##### 1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

##### 2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験  
該当資料なし

4) 患者・病態別試験  
該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）  
該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要  
該当しない

# V I . 薬効薬理に関する項目

---

## 1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬(オルメサルタン メドキシミル、ロサルタンカリウム、テルミサルタン、カンデサルタン シレキセチル等)

ニフェジピン系のカルシウムチャネル拮抗薬 (ベニジピン塩酸塩、マニジピン塩酸塩、ニソルジピン、アゼルニジピン等)

## 2. 薬理作用

### (1) 作用部位・作用機序<sup>3)</sup>

イルベサルタン

イルベサルタンは、アンギオテンシンⅡ受容体のサブタイプ AT1 受容体の拮抗薬である。内因性昇圧物質のアンギオテンシンⅡに対して受容体レベルで競合的に拮抗することにより降圧作用を現す。

アムロジピンベシル酸塩

アムロジピンベシル酸塩は、ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬で、作用の発現が緩徐で持続的であるという特徴を有する。膜電位依存性L型カルシウムチャネルに特異的に結合し、細胞内へのカルシウムの流入を減少させることにより、冠血管や末梢血管の平滑筋を弛緩させる。

### (2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

### (3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

## V II. 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移、測定法

#### (1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

#### (2) 最高血中濃度到達時間<sup>2)</sup>

##### イルアミクス配合錠HD「YD」

イルベサルタン

約 1.1 時間

アムロジピンベシル酸塩

約 6.3 時間

#### (3) 臨床試験で確認された血中濃度<sup>2)</sup>

##### イルアミクス配合錠LD「YD」

「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」(平成 12 年 2 月 14 日付 医薬審第 64 号、平成 24 年 2 月 29 日付薬食審査発 0229 第 10 号一部改正)に基づき、イルアミクス配合錠「YD」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。

イルベサルタン

試験方法

装置 : 日本薬局方一般試験法溶出試験第 2 法 (パドル法)

試験液量 : 900mL

温度 : 37±0.5°C

回転数 : 50 回転

試験液 : pH1.2 = 日本薬局方溶出試験第 1 液

pH3.0 = 薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8 = 日本薬局方溶出試験第 2 液

水 = 日本薬局方精製水

判定基準 : 【pH1.2】

標準製剤が15分以内に平均85%以上溶出する場合、試験製剤が15分以内に平均85%以上溶出するか、又は15分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にある。また、最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない

【pH3.0、水】

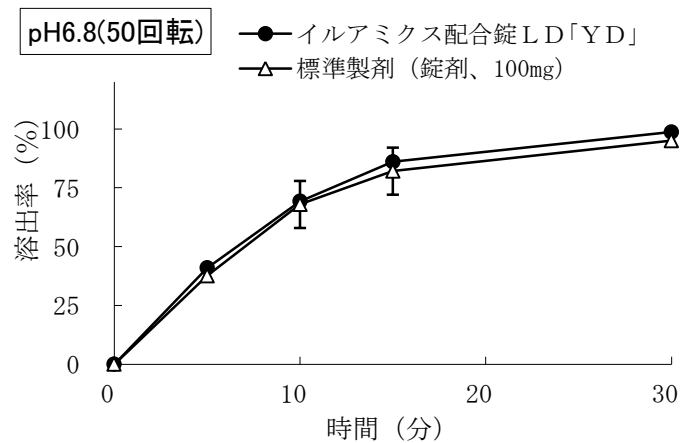
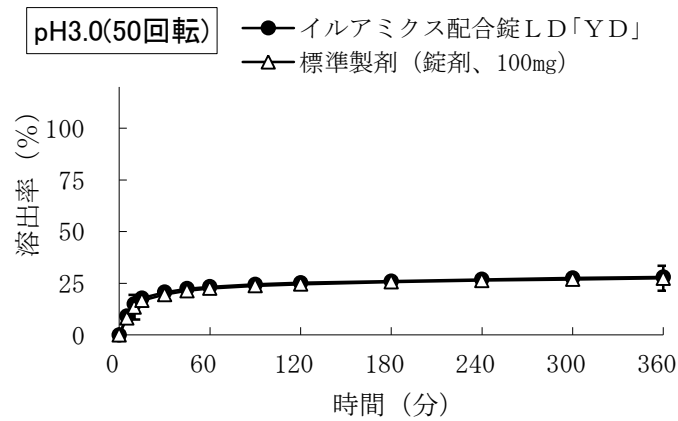
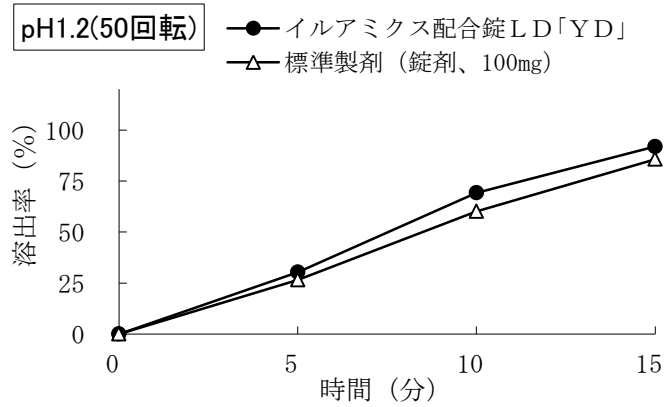
規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が50%に達しないとき、標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の1/2の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±6%の範囲にあるか、又はf2関数の値が61以上である。ただし、規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が10%以下の場合、規定された試験時間でのみ評価し、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±6%の範囲にある。また、最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、試験製剤の平均溶出率±9%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±15%の範囲を超えるものがない。

【pH6.8】

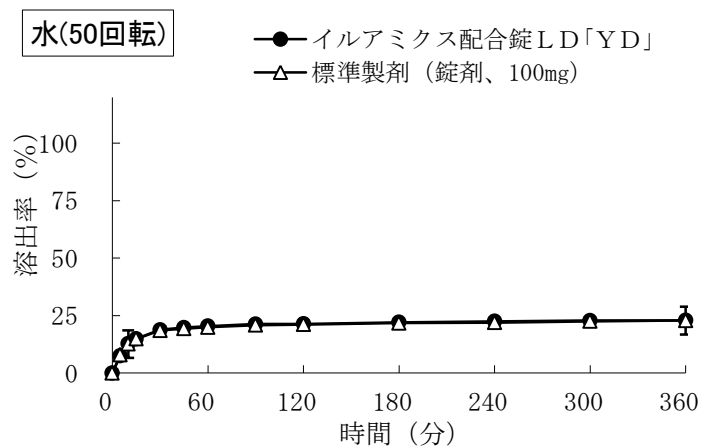
標準製剤が15～30分に平均85%以上溶出する場合、標準製剤の平均溶出率が約60%及び85%となる適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率

±10%の範囲にあるか、又はf2 関数の値が50以上である。また、最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。

試験結果：







判定時点での試験製剤の溶出率

試験液	pH1.2	pH3.0	pH6.8	水	
判定時点	15分	360分	15分	360分	
平均溶出率%	91.9	28.0	86.0	22.9	
試験製剤	1	86.9	27.7	85.0	23.2
	2	87.2	28.0	87.4	22.9
	3	95.5	27.6	83.2	23.3
	4	91.4	28.3	84.2	23.7
	5	96.3	28.2	85.6	23.4
	6	96.3	27.5	88.0	22.5
	7	90.5	27.9	84.4	22.8
	8	96.1	28.0	87.2	22.4
	9	98.0	28.1	87.3	22.9
	10	92.1	28.0	86.0	23.3
	11	97.4	28.1	88.6	22.6
	12	75.6	28.0	85.3	22.3

アムロジピンベシル酸塩

試験方法

装置 : 日本薬局方一般試験法溶出試験第2法（パドル法）

試験液量 : 900mL

温度 : 37±0.5℃

回転数 : 50回転

試験液 : pH1.2=日本薬局方溶出試験第1液

pH4.0=薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8=日本薬局方溶出試験第2液

水 = 日本薬局方精製水

判定基準 : 【pH1.2、pH4.0、pH6.8、】

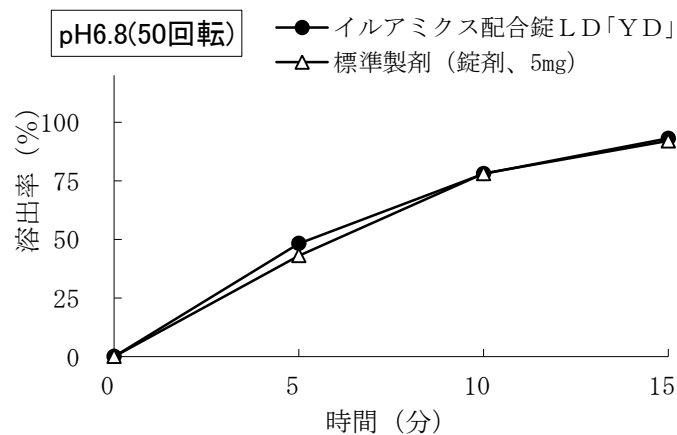
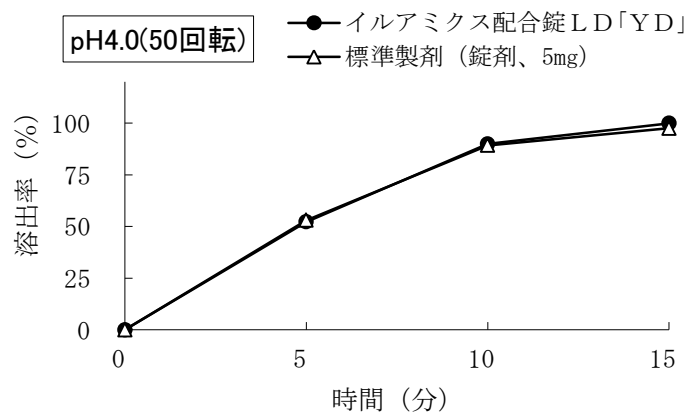
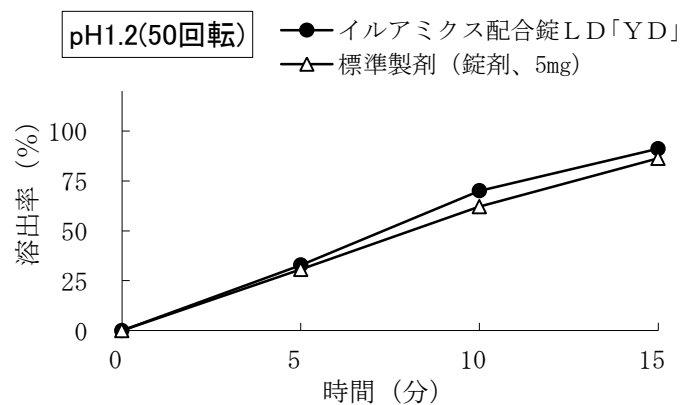
標準製剤が15分以内に平均85%以上溶出する場合、試験製剤が15分以内に平均85%以上溶出するか、又は15分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にある。また、最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、標準製剤の平均溶出率が85%（徐放性製剤では80%）以上に達するとき、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。

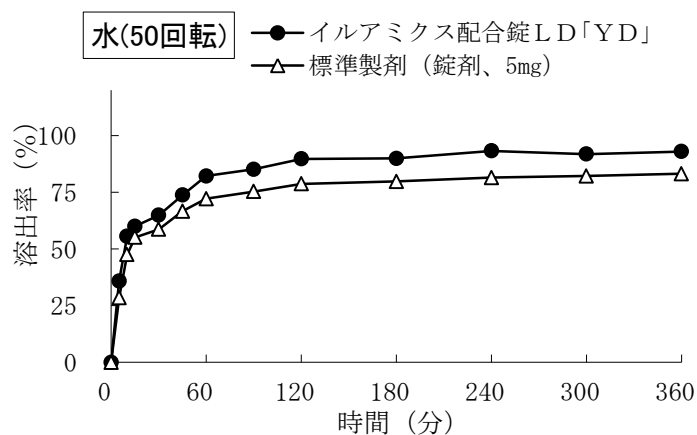
【水】

規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が50%以上85%に達しないとき、標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の1/2の平均溶出率を示す適当

な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 8\%$ の範囲にあるか、又は $f_2$ 関数の値が55以上である。また、最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、試験製剤の平均溶出率 $\pm 12\%$ の範囲を超えるものが12個中1個以下で、 $\pm 20\%$ の範囲を超えるものがない。

試験結果：





判定時点での試験製剤の溶出率

試験液	pH1.2	pH4.0	pH6.8	水	
判定時点	15分	15分	15分	360分	
平均溶出率%	91.1	99.9	93.1	92.9	
試験製剤	1	85.4	99.4	89.8	91.2
	2	86.0	98.9	93.9	91.1
	3	95.0	95.7	90.3	92.9
	4	90.0	101.3	93.3	92.5
	5	95.8	102.2	92.1	96.6
	6	93.0	101.0	94.0	92.9
	7	86.7	98.8	90.7	91.9
	8	98.9	100.5	92.4	92.5
	9	100.3	101.7	95.3	94.9
	10	90.2	100.7	94.0	92.9
	11	97.7	99.8	96.9	93.1
	12	74.3	98.4	94.3	92.1

### イリアミクス配合錠HD「YD」

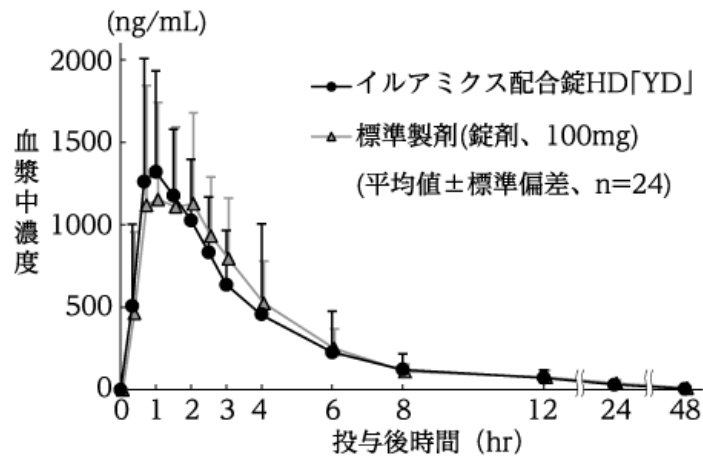
「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン(平成9年12月22日付医薬審第487号、平成24年2月29日付薬食審査発0229第10号一部改正)」

#### イルベサルタン

イリアミクス配合錠HD「YD」と標準製剤をクロスオーバー法によりそれぞれ1錠(イルベサルタンとして100mg)、健康成人男子24名に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-48</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
イリアミクス配合錠HD「YD」	5840.06 ± 2760.66	1587.42 ± 671.78	1.12 ± 0.74	12.34 ± 8.27
標準製剤 (錠剤、100mg)	6223.30 ± 2191.80	1488.77 ± 662.13	1.58 ± 0.96	12.68 ± 6.32

(平均値 ± 標準偏差、n=24)



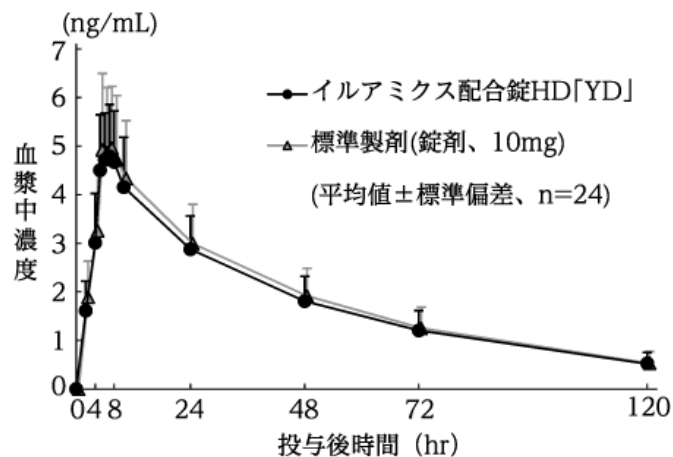
血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

#### アムロジピン

イルアミクス配合錠HD「YD」と標準製剤をクロスオーバー法によりそれぞれ1錠（アムロジピンとして10mg）、健康成人男子24名に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-120</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
イルアミクス配合錠HD「YD」	215.83 ± 56.29	5.01 ± 1.07	6.29 ± 1.04	39.14 ± 7.84
標準製剤 (錠剤、10mg)	225.72 ± 63.82	5.27 ± 1.40	6.21 ± 1.10	38.10 ± 7.22

(平均値±標準偏差、n=24)



血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

#### (4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 7. 相互作用」を参照

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

イルアミクス配合錠HD「YD」

イルベサルタン

0.0713 (hr<sup>-1</sup>)

アムロジピンベシル酸塩

0.0184 (hr<sup>-1</sup>)

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率<sup>3)</sup>

イルベサルタン

血清タンパク結合率：約97%

アムロジピンベシル酸塩

97.1%

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(参考：動物データ)

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」を参照

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

アムロジピンベシル酸塩

主として肝臓で代謝される。

(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種

イルベサルタン<sup>3)</sup>

主として CYP2C9 による酸化代謝とグルクロン酸抱合により代謝される。

アムロジピンベシル酸塩

代謝には主として薬物代謝酵素 CYP3A4 が関与していると考えられている。

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路<sup>3)</sup>

イルベサルタン

健康成人に <sup>14</sup>C-標識体を経口投与した場合、放射能の約 20%は尿中に排泄され、約 54%は糞中に排泄されることから、イルベサルタン及びその代謝物の主排泄経路は胆汁排泄であると考えられる。

(2) 排泄率<sup>3)</sup>

イルベサルタン

未変化体尿中排泄率は約 0.3~1.3%である。

アムロジピンベシル酸塩

尿中未変化体排泄率は 8%である。

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

イルベサルタン及びアムロジピンは蛋白結合率が高いため、血液透析による除去は有効ではない。

## V Ⅲ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

### 1. 警告内容とその理由

該当記載なし

### 2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

**【禁忌】**（次の患者には投与しないこと）

- (1) 本剤の成分又はジヒドロピリジン系化合物に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人（「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）
- (3) アリスキレンを投与中の糖尿病患者（ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の患者を除く）

〔非致死性脳卒中、腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧のリスク増加が報告されている。〕  
〔「重要な基本的注意」の項参照〕

### 3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

「V. 治療に関する項目 1. 効能又は効果」を参照

### 4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

「V. 治療に関する項目 2. 用法及び用量」を参照

### 5. 慎重投与内容とその理由

**慎重投与**（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者（「重要な基本的注意」の項参照）
- (2) 高カリウム血症の患者（「重要な基本的注意」の項参照）
- (3) 重篤な腎機能障害のある患者  
〔過度の降圧により腎機能を悪化させるおそれがある。〕
- (4) 肝機能障害のある患者、特に胆汁性肝硬変及び胆汁うっ滞のある患者  
〔イルベサルタンは主に胆汁中に排泄されるため、これらの患者では血中濃度が上昇するおそれがある。アムロジピンは主として肝臓で代謝されるため、肝機能障害のある患者では、血中濃度半減期の延長及び血中濃度－時間曲線下面積(AUC)が増大することがある。アムロジピン高用量(10mg)において副作用の発現頻度が高くなる可能性があるため、増量時には慎重に投与すること。〕（「副作用」の項参照）
- (5) 脳血管障害のある患者  
〔過度の降圧が脳血流不全を引き起こし、病態を悪化させるおそれがある。〕
- (6) 高齢者（「高齢者への投与」の項参照）

### 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

**重要な基本的注意**

- (1) 本剤はイルベサルタンとアムロジピンの配合剤であり、イルベサルタンとアムロジピン双方の副作用が発現するおそれがあるため、適切に本剤の使用を検討すること。
- (2) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者においては、イルベサルタンによる腎血流量の減少や糸球体ろ過圧の低下により急速に腎機能を悪化させるおそれがあるため、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、使用は避けること。
- (3) 高カリウム血症の患者においては、イルベサルタンにより高カリウム血症を増悪させるおそれがあるため、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、使用は避けること。  
また、腎機能障害、コントロール不良の糖尿病等により血清カリウム値が高くなりやすい患者では、高カリウム血症が発現するおそれがあるため、血清カリウム値に注意すること。
- (4) アリスキレンを併用する場合、腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。なお、eGFRが60mL/min/1.73m<sup>2</sup>未

満の腎機能障害のある患者へのアリスキレンとの併用については、治療上やむを得ないと判断される場合を除き避けること。

- (5) 本剤の投与によって、一過性の急激な血圧低下を起こすおそれがあるので、そのような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、特に次の患者では患者の状態を十分に観察すること。
- 1) 血液透析中の患者
  - 2) 利尿降圧剤投与中の患者
  - 3) 嚴重な減塩療法中の患者
- (6) イルベサルタンを含むアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤投与中に重篤な肝機能障害があらわれたとの報告がある。肝機能検査を実施するなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- (7) 降圧作用に基づくめまい、ふらつきがあらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。
- (8) 手術前 24 時間は投与しないことが望ましい。
- (9) アムロジピンは血中濃度半減期が長く投与中止後も緩徐な降圧効果が認められるので、本剤投与中止後に他の降圧剤を使用するときは、用量並びに投与間隔に留意するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

## 7. 相互作用

アムロジピンの代謝には主として薬物代謝酵素 CYP3A4 が関与していると考えられている。

### (1) 併用禁忌とその理由

該当記載なし

### (2) 併用注意とその理由

相互作用		
併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
カリウム保持性利尿剤 スピロノラクトン トリアムテレン等 カリウム補給剤 塩化カリウム	血清カリウム値が上昇することがあるので注意すること。	機序：イルベサルタンのアルドステロン分泌抑制によりカリウム貯留作用が増強する可能性がある。 危険因子：腎機能障害のある患者
アリスキレン	腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、腎機能、血清カリウム値及び血圧を十分に観察すること。 なお、eGFR が 60mL/min/1.73 m <sup>2</sup> 未滿の腎機能障害のある患者へのアリスキレンとの併用については、治療上やむを得ないと判断される場合を除き避けること。	併用によりレニン・アンジオテンシン系阻害作用が増強される可能性がある。
アンジオテンシン変換酵素阻害剤	腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、腎機能、血清カリウム値及び血圧を十分に観察すること。	併用によりレニン・アンジオテンシン系阻害作用が増強される可能性がある。



非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) COX-2 選択的阻害剤	イルベサルタンの降圧作用が 減弱するおそれがある。	血管拡張作用を有するプロ スタグランジンの合成 阻害により、イルベサルタ ンの降圧作用を減弱させ る可能性がある。
	腎機能が低下している患者で は、さらに腎機能が悪化する おそれがある。	プロスタグランジンの合成 阻害により、腎血流量が 低下するためと考えられ る。
リチウム	イルベサルタンによるリチウ ム中毒が報告されているので、 血中リチウム濃度に注意する こと。	リチウムの再吸収はナト リウムと競合するため、イ ルベサルタンのナトリウ ム排泄作用により、リチウ ムの再吸収が促進され ると考えられる。
降圧作用を有する薬剤	相互に作用を増強するおそれ がある。慎重に観察を行うな ど注意して使用する。	相互に作用を増強するお それがある。
CYP3A4 阻害剤 エリスロマイシン ジルチアゼム リトナビル イトラコナゾール等	エリスロマイシン及びジルチ アゼムとの併用により、アム ロジピンの血中濃度が上昇し たとの報告がある。	アムロジピンの代謝が競 合的に阻害される可能性 が考えられる。
CYP3A4 誘導剤 リファンピシン等	アムロジピンの血中濃度が低 下するおそれがある	アムロジピンの代謝が促 進される可能性が考えら れる。
グレープフルーツジュース	アムロジピンの降圧作用が増 強されるおそれがある。同時 服用をしないように注意す ること。	グレープフルーツに含ま れる成分がアムロジピ ンの代謝を阻害し、アムロ ジピンの血中濃度が上昇す る可能性が考えられる。
シンバスタチン	アムロジピンとシンバスタチ ン 80mg(国内未承認の高用量) との併用により、シンバスタ チンの AUC が 77%上昇した との報告がある。	機序不明。
タクロリムス	アムロジピンとの併用により タクロリムスの血中濃度が上 昇し、腎障害等のタクロリ ムスの副作用が発現するお それがある。併用時にはタク ロリムスの血中濃度をモニタ ーし、必要に応じてタクロリ ムスの用量を調整すること。	アムロジピンとタクロリ ムスは、主として CYP3A4 により代謝されるため、併 用によりタクロリムスの 代謝が阻害される可能性 が考えられる。

## 8. 副作用

### (1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

<b>重大な副作用</b>	
1) 血管浮腫(頻度不明)	顔面、口唇、咽頭、舌等の腫脹を症状とする血管浮腫があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
2) 高カリウム血症(頻度不明)	重篤な高カリウム血症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。
3) ショック、失神、意識消失 (いずれも頻度不明)	ショック、血圧低下に伴う失神、意識消失があらわれることがあるので、観察を十分に行い、冷感、嘔吐、意識消失等があらわれた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。特に、血液透析中、嚴重な減塩療法中、利尿降圧剤投与中の患者では患者の状態を十分に観察すること。
4) 腎不全 (頻度不明)	腎不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
5) 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸 (いずれも頻度不明)	劇症肝炎、AST(GOT)、ALT(GPT)、ALP、 $\gamma$ -GTP の上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
6) 低血糖 (頻度不明)	低血糖があらわれることがある(糖尿病治療中の患者であらわれやすい)ので、観察を十分に行い、脱力感、空腹感、冷汗、手の震え、集中力低下、痙攣、意識障害等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
7) 横紋筋融解症 (頻度不明)	筋肉痛、脱力感、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、横紋筋融解症による急性腎不全の発症に注意すること。
8) 無顆粒球症、白血球減少、血小板減少 (いずれも頻度不明)	無顆粒球症、白血球減少、血小板減少があらわれることがあるので、検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
9) 房室ブロック(頻度不明)	房室ブロック(初期症状：徐脈、めまい等)があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

<b>その他の副作用</b>	
次のような副作用が認められた場合には、必要に応じ、減量、投与中止等の適切な処置を行うこと。	
	<b>頻度不明</b>
過敏症 <sup>注2)</sup>	発疹、そう痒、蕁麻疹、光線過敏症、多形紅斑、血管炎 <sup>注1)</sup> 、血管浮腫 <sup>注1)</sup>
肝臓	肝機能障害、ALT(GPT)上昇、AST(GOT)上昇、ALP上昇、ビリルビン上昇、 $\gamma$ -GTP上昇、LDH上昇 <sup>注1)</sup> 、黄疸 <sup>注1)</sup> 、腹水 <sup>注1)</sup>
筋・骨格系	関節痛、筋痙攣、背部痛、筋肉痛 <sup>注1)</sup> 、筋力低下 <sup>注1)</sup> 、筋緊張亢進 <sup>注1)</sup>
血液	貧血、紫斑、白血球増加、赤血球減少 <sup>注1)</sup> 、ヘマトクリット減少 <sup>注1)</sup> 、ヘモグロビン減少 <sup>注1)</sup> 、白血球減少 <sup>注1)</sup> 、好酸球増加 <sup>注1)</sup> 、血小板減少 <sup>注1)</sup>
循環器	浮腫 <sup>注3)</sup> 、動悸、ほてり(熱感、顔面潮紅等)、失神、頻脈、起立性低血圧、心房細動、胸痛、期外収縮、血圧低下 <sup>注1)</sup> 、徐脈 <sup>注1)</sup> 、洞房又は房室ブロック <sup>注1)</sup> 、洞停止 <sup>注1)</sup>

消化器	逆流性食道炎、下痢・軟便、口内炎、心窩部痛、便秘、胃腸炎、悪心 <sup>注1)</sup> 、嘔吐 <sup>注1)</sup> 、胸やけ <sup>注1)</sup> 、胃不快感 <sup>注1)</sup> 、口渇 <sup>注1)</sup> 、消化不良 <sup>注1)</sup> 、排便回数増加 <sup>注1)</sup> 、膵炎 <sup>注1)</sup> 、腹痛 <sup>注1)</sup> 、腹部膨満 <sup>注1)</sup>
腎臓	尿管結石、頻尿・夜間頻尿、クレアチニン上昇、BUN上昇 <sup>注1)</sup> 、尿中蛋白陽性 <sup>注1)</sup> 、尿沈渣異常 <sup>注1)</sup> 、尿潜血陽性 <sup>注1)</sup> 、排尿障害 <sup>注1)</sup>
精神神経系	めまい・ふらつき、頭痛・頭重、眠気、しびれ、末梢神経障害、もうろう感 <sup>注1)</sup> 、不眠 <sup>注1)</sup> 、振戦 <sup>注1)</sup> 、気分動揺 <sup>注1)</sup> 、錐体外路症状 <sup>注1)</sup>
代謝異常	CK(CPK)上昇、尿酸上昇、尿中ブドウ糖陽性、糖尿病、コレステロール上昇、血中カリウム減少、血中カリウム上昇 <sup>注1)</sup> 、高血糖 <sup>注1)</sup>
その他	脳梗塞、異常感覚、倦怠感、CRP上昇、咳嗽、体重増加、脱毛、脱力感、勃起障害、鼻出血、鼻炎、霧視 <sup>注1)</sup> 、味覚異常 <sup>注1)</sup> 、発熱 <sup>注1)</sup> 、総蛋白減少 <sup>注1)</sup> 、耳鳴 <sup>注1)</sup> 、疲労 <sup>注1)</sup> 、視力異常 <sup>注1)</sup> 、呼吸困難 <sup>注1)</sup> 、多汗 <sup>注1)</sup> 、(連用により)歯肉肥厚 <sup>注1、3)</sup> 、性機能異常 <sup>注1)</sup> 、女性化乳房 <sup>注1)</sup> 、体重減少 <sup>注1)</sup> 、疼痛 <sup>注1)</sup> 、皮膚変色 <sup>注1)</sup>

注1) イルベサルタン製剤又はアムロジピン製剤で認められている副作用。

注2) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

注3) アムロジピン製剤を増量して10mgを投与した場合に、高い頻度で認められたとの報告がある。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

**[禁忌]** (次の患者には投与しないこと)

(1) 本剤の成分又はジヒドロピリジン系化合物に対し過敏症の既往歴のある患者

**その他の副作用**

次の副作用があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止するなどの適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症 <sup>注2)</sup>	発疹、そう痒、蕁麻疹、光線過敏症、多形紅斑、血管炎 <sup>注1)</sup> 、血管浮腫 <sup>注1)</sup>

注2) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

9. 高齢者への投与

**高齢者への投与**

(1) 高齢者では一般に過度の降圧は好ましくないとされているので、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

[脳梗塞等が起こるおそれがある。]

(2) 他社が実施した国内臨床試験では65歳未満の非高齢者と65歳以上の高齢者において、イルベサルタン/アムロジピンベシル酸塩製剤の効果及び安全性に差はみられなかった。

(3) アムロジピンは、高齢者での体内動態試験で血中濃度が高く、血中濃度半減期が長くなる傾向が認められているので、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

## 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

### 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。また、投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。  
[妊娠中期及び末期に他のアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤やアンジオテンシン変換酵素阻害剤を投与された高血圧症の患者で羊水過少症、胎児・新生児の死亡、新生児の低血圧、腎不全、高カリウム血症、頭蓋の形成不全及び羊水過少症によると推測される四肢の拘縮、頭蓋顔面の奇形、肺の発育不全等があらわれたとの報告がある。アムロジピンは動物実験で妊娠末期に投与すると妊娠期間及び分娩時間が延長することが認められている。]
- (2) 授乳中の婦人への投与を避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。  
[イルベサルタンでは動物実験(ラット)において乳汁中への移行が認められている。また、動物実験(ラット)出生前及び出生後の発生並びに母体の機能に関する試験)の 50mg/kg/日以上で哺育期間において出生児の体重増加抑制が認められている。アムロジピンではヒト母乳中へ移行することが報告されている。<sup>4)</sup>]

## 11. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。(使用経験がない)。

## 12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当記載なし

## 13. 過量投与

### 症状

イルベサルタンの主な徴候、症状は、著しい血圧低下、頻脈と考えられる。アムロジピンは、過度の末梢血管拡張により、ショックを含む著しい血圧低下と反射性頻脈を起こすことがある。

### 処置

通常、次のような処置を行う。

- (1) 心・呼吸機能のモニターを行い、頻回に血圧を測定する。著しい血圧低下が認められた場合は、四肢の挙上、輸液の投与等、心血管系に対する処置を行う。症状が改善しない場合は、循環血液量及び排尿量に注意しながら昇圧剤の投与を考慮する。
- (2) 催吐、活性炭投与又は胃洗浄：アムロジピン服用直後に活性炭を投与した場合、アムロジピンの AUC は 99%減少し、服用 2 時間後では 49%減少したことから、アムロジピン過量投与時の吸収抑制処置として活性炭投与が有効であると報告されている。

### 注意

イルベサルタン及びアムロジピンは蛋白結合率が高いため、血液透析による除去は有効ではない。

## 14. 適用上の注意

### 適用上の注意

#### 薬剤交付時

P T P包装の薬剤はP T Pシートから取り出して服用するよう指導すること。(P T Pシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

## 15. その他の注意

因果関係は明らかでないが、アムロジピンによる治療中に心筋梗塞や不整脈(心室性頻拍を含む)がみられたとの報告がある。

## 16. その他

## I X. 非臨床試験に関する項目

---

### 1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験(「V I. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

### 2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

## X. 管理的事項に関する項目

---

### 1. 規制区分

処方箋医薬品<sup>注)</sup>

注)注意—医師等の処方箋により使用すること

### 2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）

### 3. 貯法・保存条件

室温保存、気密容器

### 4. 薬剤取扱い上の注意点

#### (1) 薬局での取り扱い上の留意点について

特になし

#### (2) 薬剤交付時の取り扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

患者向医薬品ガイド：有り、くすりのしおり：有り

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法」を参照

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」を参照

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 14. 適用上の注意」を参照

#### (3) 調剤時の留意点について

特になし

### 5. 承認条件等

該当しない

### 6. 包装

イルアミクス配合錠LD「YD」

PTP：100錠、500錠

バラ：500錠

イルアミクス配合錠HD「YD」

PTP：100錠、500錠

バラ：500錠

### 7. 容器の材質

イルアミクス配合錠LD「YD」

PTP：ポリプロピレンフィルム、アルミニウム箔、アルミニウム・ポリエチレンラミネートフィルム

バラ：ポリエチレンボトル、ポリプロピレンキャップ、ポリエチレン緩衝材

イルアミクス配合錠HD「YD」

PTP：ポリプロピレンフィルム、アルミニウム箔、アルミニウム・ポリエチレンラミネートフィルム

バラ：ポリエチレンボトル、ポリプロピレンキャップ、ポリエチレン緩衝材

8. 同一成分・同効薬

同一成分：アイミクス配合錠LD/HD（大日本住友＝塩野義）

同効薬：バルサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合、テルミサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合、カンデサルタン シレキセチル・アムロジピンベシル酸塩配合、アジルサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合、オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン配合

9. 国際誕生年月日

該当しない

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

承認年月日

イルアミクス配合錠LD「YD」：平成30年2月15日

イルアミクス配合錠HD「YD」：平成30年2月15日

承認番号

イルアミクス配合錠LD「YD」：23000AMX00263000

イルアミクス配合錠HD「YD」：23000AMX00264000

11. 薬価基準収載年月日

イルアミクス配合錠LD「YD」：平成30年6月15日

イルアミクス配合錠HD「YD」：平成30年6月15日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当資料なし

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当資料なし

14. 再審査期間

該当資料なし

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は投与期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT（9）番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算コード
イルアミクス配合錠 LD「YD」	126201801	2149118F1070	622620101
イルアミクス配合錠 HD「YD」	126202501	2149118F2077	622620201

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

## X I . 文 献

---

### 1. 引用文献

- 1) 株陽進堂 社内資料：安定性試験
- 2) 株陽進堂 社内資料：生物学的同等性試験
- 3) 第十七改正日本薬局方解説書、廣川書店
- 4) Naito T. et al. : J Hum Lact 31(2) : 301, 2015

### 2. その他の参考文献

## X II . 参 考 資 料

---

### 1. 主な外国での発売状況

### 2. 海外における臨床支援情報 該当しない

## X III . 備 考

---

その他の関連資料  
該当資料なし



[MEMO]

[MEMO]

[MEMO]



株式会社 陽進堂

富山県富山市婦中町萩島3697番地8号